

株式賣買案内

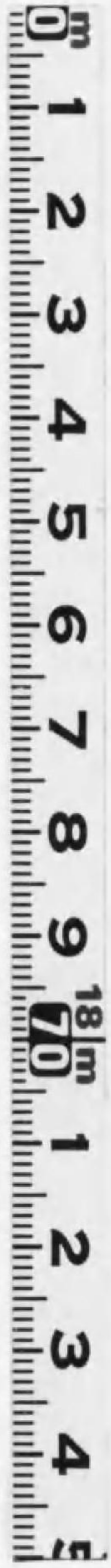
金万證券株式會社

特 250

852

329

238



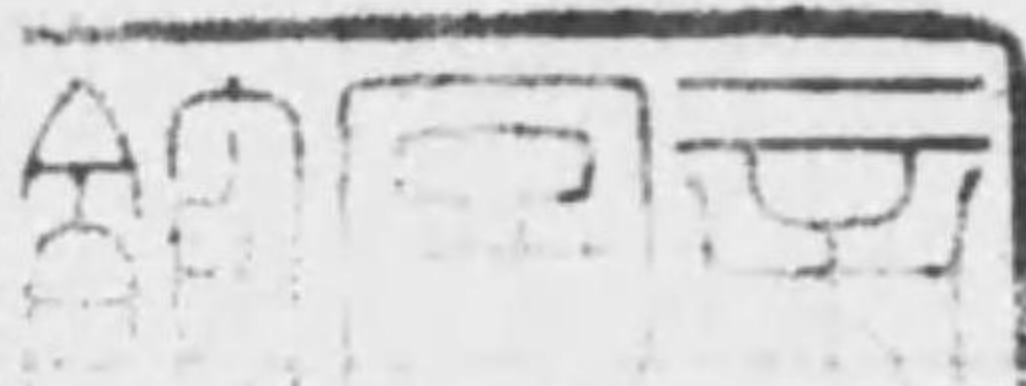
始



はしがき

弊社は昭和五年一月舊羽南波禮吉商店の業務一切を引継ぎ東京株式取引所の法人取引員として取引員營業を開始することになりました。従つて取引員としての弊社は未だ開業早々の新舗と云ふことになりましたが、併し業務一切を其儘に引継ぎました羽南波禮吉商店は實に斯界最古參の老舗であります。故に其内容から申しすれば、金万證券株式會社は矢張り斯界最古參の老舗であると言ふことになります。

私が株式市場たる東京兜町に足を踏み入れました第一歩は、明治廿六年四月慶應義塾を卒業した二十三歳の時でありますから、恰度



二
今から三十七年前に當りまして、獨立してからの生涯を殆んど此處に没頭して居ると申してもよい次第であります。越えて羽商店を創立するに至つたのは明治二十八年で、恰度本年は三十六年目に相當するのであります。この長い歲月の間には我財界も長足なる進歩を遂げて居りまして、殆んど隔世的の感があります。従つて此長い歲月の間には幾多の波瀾變動がありました、即ち日清戰役を始めとし、日露戰役、歐洲大戰、大正十二年の關東大震火災、更に去る昭和二年の金融大恐慌、這回の金解禁等、殆んど枚舉に遑ない程の幾多の激甚なる變動が襲來致しまして、證券市場にはその都度、幾多の狂瀾怒濤が重疊洶涌いたしました。それが爲めに羽南波禮吉商店も屢々孤舟航行の苦難を甜めさせられたのであります。幸にも針路を

誤りませんで、此間専ら華を避け、堅實一天張りの營業方針を踏襲し、且つ御得意様本位の店是を固く支持し來りましたので、日に月に益々信用を高むることとなり、遂ひに幾多の難關を突破して斯界の老舗、堅い取引員として厚い信用を博するに至つた次第であります。併し斯く幾多の難航路を切抜け、今日の堅い老舗信用ある取引員として好評判を受くるに至りましたことも、その因は御眷顧の厚き御得意様の御指導と御援助の賜に他ならないのであります。今日深く感佩に堪えないところであります。舊羽南波禮吉商店は斯様な徑路を經まして發展して參りました。斯界最古參の百戰練達の店であり、ます、金万證券株式會社はこの老舗の業務一切を其儘引繼いで新たに法人取引員として開業するに至つたのであります。何卒

舊羽南波禮吉商店以上に御後援御愛顧の程偏に御願ひいたす次第であります。

現今我國經濟界の發展進歩は實に著しいものでありまして、殆んど窮まりなき程の膨脹を示して居ります。此新時代に當りまして證券市場に於ける取引員は益々その使命の重、且つ大なるを覺ゆるものであります。即ち層一層その信用を向上せしむると共に、その取引上に於ける實力の増大を圖らねばならぬ次第で、將に時代はそれを要求して居るのであります。此際に於ける法人取引員の設立は寔に此等の新時代の要求に適應しまする有意義のことであると考へます。

我金万證券株式會社は斯かる新時代の要求に對應しまして、重大

なる新使命の下に生れて参りました。而して舊羽南波禮吉商店の業務一切を引継ぎまして、愈々その陣容を固むることとなりました。即ち茲に面目一新、新陣容の下に益々其發展を遂ぐべく基礎が培はれて來たのであります。併し如何程基礎が培はれ陣容が整ひましたも、取引員として發展致しますには最後に御得意各位の御援助御引立に據らねばなりません。此の機會に於まして一層各位の御引立を翼ふ次第であります。斯くして弊社の更に發展いたしますことが、これがまた御得意様に酬ゆる所以と深く信ずるものであります。

尙弊社は此機運に際しまして、ます／＼有價證券の民衆化に努力致し度いと考へて居ります。それには種々の方法も御座いませう

が社是といたしましては從來の堅實一天張りの營業方針を嚴守いたします外、一枚の債券、一株の御注文にも親切にして御満足を得らるゝ様、日頃の御愛顧に背かぬ様、従業員を督勵いたして居ります。何卒多少に拘らず御注文仰付け被下御引立の程を切に御願ひ致します。

昭和五年四月

金万證券株式會社

取締役社長 南波禮 吉謹白

目次

有利なる株式投資……………一

生活の安定と貯蓄……………貯蓄の運用利殖……………株式投資の有利……………米國の株式投資……………

株式の賣買と研究……………六

株式市價の變動……………株式投資の研究……………投資の成效不成效……………

株式賣買の方法……………二

一、長期清算取引(株式)……………三

限月關係……………轉賣買戻……………乘替賣買……………當限納會……………賣買物件……………

賣買方法……………市場の立會……………賣買單位……………箱取賣買……………兩 建……………

二、短期清算取引(株式)……………四

長期取引との相異……………莫大の利益を得た實例……………現在建株……………立會時間……………

賣買方法……………繰延期限……………繰延料……………爲替勘定……………納取賣買……………

三、實物取引(株式)……………

賣買物件……………賣買單位……………受渡期限……………立會日……………中值相場……………入
札賣買……………

國債賣買の方法……………四〇

裸相場……………

一、國債長期清算取引……………四一

……………上場銘柄……………單位と呼値……………取引の期限……………立會方法……………本證據
金……………手数料……………

二、國債社債實物取引……………四四

御注文の仕方……………四五

注文書の書方……………成行賣買……………指値賣買……………指値使用期間……………注文の訂

正と取消……………長期取引の注文……………寄引の指定……………分割賣買……………長期の期
限指定……………短期取引の注文……………實物取引の注文……………通信に依る注文……………
報告書と承諾書……………

委託證據金……………五五

本證據金……………追證據金……………增證據金……………代用證券……………

委託手数料……………五九

長期手数料……………短期手数料……………實物手数料……………

受渡……………六一

長期取引の受渡……………早受渡制度……………短期取引の受渡……………實物取引の受渡……………
……………御送金の方法……………荷爲替……………

株式名義書換と委任狀……………六八

名義書換……………委任狀……………

仕切計算……………七二

募集及引受……………七
 金融及仲介……………七
 調査部の利用……………七

附 録 (その一)

株式と投資……………七

附 録 (その二)

「株式講話」抜萃……………七
 家庭の安全利殖……………七
 社會問題を解決する株式の民衆化……………一〇

株式賣買案内

列金万證券株式會社調査部編纂

有利なる株式投資

經濟界が進歩するに伴ひ我々の生活も貨幣の支配を受くる程度が次第に強くなつて來ます。勢ひそこに生活の安定を計る爲め相當の工夫を回らす必要が生じて來るのであります。

殊に我國の如く人口過剰の國では一層に生存競争も烈しくなつて來る次第で、一般の人々がその収入の増加を計るといふことは益々困難になつて參ります。そこで勢ひ生活費を極力制限してそこに「剩餘

貯蓄をしましむる必要が起り、更にこの剰餘貯蓄の「運用利殖」といふことの必要が生じて來るのであります。

生活の安定と貯蓄

處でこの貯蓄をするといふことは却々に六ヶ敷いことでもあります、更にこの貯蓄をどう活用して利殖せしむるか云ふことになる。一層に難しい大きな問題であります。併し今日の世の中で生活の安定を得たいと欲すれば、勢ひ相當の財産を積み重ねなければなりません。この財産を作り上げる爲めには「剰餘貯蓄」といふ困難なことも更にその「運用利殖」といふ難しい問題も耐え忍んで成し遂げねばならぬのであります。

我國の郵便貯金は近年著しく増加して既に二十億圓を突破するに至りました。即ち大正十二年の關東大震災當時に恰度倍加するに至つた次第で、その増加振りは寔に著しいものと云はねばなりません。

併しこの現象は單に貯蓄の増加といふ點から観ますれば慶ぶべきことに違ひないのであります。一面低金利といふ點から考へますと、全く資金の死藏でありまして「運用利殖」といふことに就て我國民の考が未だ甚だ幼稚であり、無頓着であるといふことを悲しまねばなりません。

貯蓄の運用利殖

扱て然らば我々が生活費の内から極力剰餘貯蓄を生み出すとして、この剰餘貯蓄を如何にして「運用利殖」したならばよいか。勿論誰方でも此財産を資金の形で持つて居るものはまづ無いと云つて差支えありません。或ひは田地に代え、銀行預金に代え、或ひは公債株式に代えると云ふやうに、それぞれ利殖の方法が講せらるゝのであります。其の中で最も現在の經濟状態に適し、最も有利なるものは「株式の投資」であると憚からず申上ぐる事が出来るのであります。

す。

株式投資の有利

株式には幾多の長所があります。最も普遍的であつて、賣買に自由なること、融通力の多きこと、利廻りのよきこと、保管の容易なること、市價昂騰の望みあること、市價の變動に際して損失を防ぐ爲めの保險的賣繋ぎが迅速に行ひ得ること等は、其主なるものであります。他の追従を許さぬ特色であります。

今日富豪と云はるゝ立志傳中の人々の成功の實績を尋ねましても、その大を爲した大部分はこの株式投資に據つて居り、また現在も引續きその資産の大部分をこれに投資してゐます。これは事業會社の株主名簿を閲覽すれば直ちに首肯さるゝところで明白な事實であります。而して各事業會社を通じて近年その株主數を著しく増加せしめて居ります。例へば東京株式取引所の株主數は二三年前迄は一萬人そ

こそここでありました。その後次第に増加して最近では一萬五千人と忽ちに約五割方を増加せしめて居ります。これには種々の原因もありませうが、一面株式の投資價值が一般民衆に理解さるゝやうになつて來て、次第に投資家を増加せしむるに至つたことは争はれない事實であります。即ち時代は將に株式の民衆化に向つて進みつゝあることは否定出來ない事實であります。恐らくこの傾向は今後とも顯著になつて参りませう。

米國の株式投資

米國の如きは下婢、下男、女店員、給仕など迄が夫れ株式投資を行つてゐるといふ株式の普遍化、民衆化振りを示して居りますが、これは流石に産業の發達した國柄だけありまして、國民一般が著しく資金の「運用利殖」といふ點に留意し、それに関する知識が發達して居るからであります。併もこの結果は産業の資金化が容易と

なり、一層にその産業の發達を促すといふ副作用を生じ、今日の米國をして世界に冠たるの産業國たらしめて居るのであります。我國も應てはさう云ふ時代に進んで來るに相違ないのであります。何んにしても我國の過去に於ける株式は危険なりといふ誤解を一掃し、良く研究を積んで、この最も有利にして最も優れる投資法に依り、資産の増大を圖らねばならぬのであります。

以上に依つて株式の投資が如何に現在經濟状態に適應した、最も進歩せる、最も優越せる利殖法であるか、お判りになつたこと、思ひます。尙卷尾に附録として南波禮吉著「株式講話」拔萃が掲げてあります、是非御照讀下さい。

株式の賣買と研究

株式投資が資金利殖法として最も優れるものであることは前章に述べたところにより既にお判りになつたこと、思ひます。併し既に株式に投資する以上、單に一定の株式によつて一定の收入を計るのみでは財産の利殖上未だ其の効果が著しいとは云はれません。即ち財界の變動に善處して適當に株式を賣買することをも考へねばなりません。例へば市價の安い時に買入れ、高くなつた時に賣放ち、また其の得た金を以て市價の再び下りたる時に買入れる等、運用の途は多々あります。

株式市價の變動

株式市價の變動は種々の事情から來るものであります。よく研究し、よく注意すれば略々判るもので、決して判らない事ではありません。經濟學者は景氣の循環といふことを説いて、景氣の後には不景氣來り、次で恐慌となり、更に轉じて景氣となり、熱狂とな

り循環して止まぬと云つて居りますが、株式市價の最も變動を受くるは此景氣、不景氣であります。而して景氣の循環もまた凡そ豫め認め得らるゝものであります。

株式投資の研究

要するに株式の投資は、機に臨み、變に應じて賣り又は買ふ等、賣買を爲すことに由つて一層にその利殖の効果を顯著ならしむるものであります。而してこれが投資に際しては出來得る限り充分に研究すべきものであります。研究の上で正しき投資をすれば、それに對する正しき利益が舉ります。折角の好利殖法で却つて産を破つた人も往々あるやうですが、これは株式投資そのものが悪いのでなく、その遣り方が甚だ放漫であつたり、研究の著しく不充分なるが爲めであります。

投資の成功不成功

尤もお醫者必ずしも長命で無いと同様に有

價證券の投資も、それに關する知識研究の有無だけで成功不成功が定まるとばかりは行きません。多くの投資者を見る時、可なり投資に關する造詣の深い人が、普通の収入だけしか得られないのに、然らざるものが却つて莫大なる利得に有り付くといふことがあります。従つて研究を多く積むことが必ずしも利殖に長ずるとは斷言出來ないのであります。然し乍ら造詣の深いこと、研究を積んだことが、その無い者よりも成功の可能性が多く、失敗の危険率が甚だ少ないといふことは云ひ得ます。

各人の生命の長い短いは、決して養生法の知識のある無しで定まるものではありません。それは寧ろ其の人の生活が、攝生法に依つて存する自然法則に合致するか、しないかに依つて定まる場合が多い。即ち攝生法を知つて居る者が、これを知らぬ者より過ちは少なく長壽者

も餘計出して居るといふことは事實上認めらるゝのであります。株式の賣買と研究の關係も恐らく斯様なものであらうと思はれます。従つて出來得る限り、其會社の營業報告書や、新聞、雜誌等に依り、其の内容實質を研究調査されることが必要であります。

弊社は舊南波禮吉商店創業以來の一貫した信念の下に、一切の粉飾を嫌ひ、堅實を本旨として時代の推移に従ひ、専ら各位の利益と安全とを圖る店是を營業の大方針として踏襲して居りますが、更にこの大方針の下に御得意様本位の機敏と正確とを目標とする「調査部」の完備を企圖しつゝありますから、何卒進んでこれを御利用の上、各位の安全なる投資利殖の伴侶として、末永く御引立を蒙り度く、茲に御願ひ致す次第であります。

株式賣買の方法

株式賣買には三つの方法があります。即ち「長期清算取引」「短期清算取引」及び「實物取引」の三つであります。長期清算取引とは最長期限三ヶ月間に賣付買付自在でありまして、其の期限の到來する迄は正株を渡さず、また正株を引取らずに一定の證據金だけで思惑を樹つることが出来る方法でありまして、その期限以内に於て賣付(賣建)又は買付(買建)に對し自由自在に買戻し(賣玉)賣付株を買戻して相殺する(轉賣)買玉(買付株)を他へ轉嫁して相殺する(等)を行つて建玉(建株)を手仕舞(仕切る)ふことが出来る、極めて妙味の存する定期取引であります。短期清算取引とは長期清算取引と同様の方法を以つて三十日を期限とする取引であります。實物取引とは純然たる實株の現金取引であります。

て正株を直ちに授受する取引であります。以下三つの賣買方法について其大略を申述べます。

一、長期清算取引(株式)

長期清算取引とは定期取引でありまして、期限が三ヶ月と定められこれを三つに區分されて居ります。これを正式に申しますと最初の月から順次、当月限、翌月限、翌々月限と唱えます。市場では略して當限(モリカ)中限(モリキ)先限(モリキ)と申して居ります。而してこれが一月であれば當限は一月限、中限は二月限、先限は三月限でありまして、それぞれ其の月の最終營業日が期限であつて、その期限の日に受渡(實株と現金の授受即ち賣買の履行)を行ふのであります。

限月關係

随つて一月に於ける三月限はこれを先限と稱します

が、二月に這入れれば最早先限では無く、中限と唱えます。而して新たに生れた(新甫)四月限が先物といふことになり、越えて三月になります。又、三月限はもう當限と唱えます。而して四月限が中限となり、更に新甫の五月限が先物となつて生れて参ります。而して二月限の最終營業日に於て取引が全部履行(受渡)されて終了して居ります。斯くて三月限は三月即ち當限となつた月の最終營業日(受渡日)に受渡さるのであります。従つて月の替る毎に當限、中限、先限の名稱は順次一月づつ繰り上げられて行く譯であります。三月限は何處までも三月限でありまして、三月末に受渡を行ふことが條件の一つとなつて居り、他の二月限とか一月限など、混同する譯には行きません。それは條件が異なるからであります。第一に期限が異なりますが、更に拂込額の異なる場合や、配當金が付くと付かぬの相異なる場合もあり、斷然混同を許さ

ぬものであります。故に二月限を買つて三月限を賣つても、これはど
 ちらも新規の建玉でありまして二月限買玉の轉賣とはならないので
 あります。即ち限月を異にしてはその條件が異つて來ますから決し
 て轉賣買戻は出來ないのであります。同一銘柄(株式)の名稱同一限月
 のものに於てのみ轉賣(賣埋)買戻(買埋)は許さるゝのであります。これ
 は慣れない方の往々にして間違ひ易い點でありまして、初心の方は良
 く飲み込んで置かねばならぬところでありまして、左にその限月の關
 係を表示致します。

	一月中の 會	二月中の 會	三月中の 會	四月中の 會	五月中の 會
一月限	當限	—	—	—	—
二月限	中限	當限	—	—	—

三月限	先限	中限	當限	—	—
四月限	—	先限	中限	當限	—
五月限	—	—	先限	中限	當限
六月限	—	—	—	先限	中限
七月限	—	—	—	—	先限

長期清算取引は右表に示す如く先限として生れて、更に中限から當
 限に廻る三ヶ月間の間、一定の證據金を納入して賣付(賣建)又は買付
 (買建)を行ひ、更にこれを轉賣又は買戻を行ひその取引を決済するこ
 とは自由であります。期限の最終日以前にこれを行はないと最終
 日に於て受渡(實物)と總代金の授受を行はねばなりません

轉賣買戻

賣埋又は買埋とも唱えますが、この轉賣買戻こそ清算
 取引制度の最も特徴とするところの妙味でありまして、他の取引に類

例の見ないところのものであります。轉賣(賣埋)とは買付た建玉を更に賣付(前段述べました如く同一物件の同一限月であらねばなりません)これを前の買玉の賣埋であることを申述べて、この取引を結了(手仕舞)して仕舞ふのであります。此際その買値と賣値の値開き(値鞘)だけの差金の授受を行つて取引を結了するもので決して總代金を遣り取りするものではありません。そこでその買値と賣値との差が利益になつて居ればそれだけの差金は取得され、損勘定となつて居ればそれだけ支拂ふことになるのであります。勿論極めて小額なる低廉の委託手数料も此際計算されます、而して證據金はその儘に手許へ歸るのであります。買戻(買埋)とは轉賣の反對でありまして最初賣玉を建て、それをその後買埋めて取引を結了するのであります。此際も賣建は一定の證據金(買建の場合と均しく)を納めて賣付て貰ふのでありまして、

必ずしもその株券を所有して居らねばならぬのではありません。そして清算取引の特徴の一つとしてこの賣建も買建も一定の證據金を納むるだけで、どちらを先に行つても一向に差支無いのであります。斯く轉賣又は買戻はその取引を結了させる行爲であります、若しこの轉賣買戻を期限内に行ひませんと前段申上げました通り、愈々期限最終日(休日の際はその前日)に受渡を履行し、實株と現金の授受を行はねばなりません。而して清算取引に於ては長期も短期もこの轉賣買戻を行つて其取引を結了せしむることも、また受渡を行つて其取引を結了せしむることも全く自由なのであります。

乗替賣買

前段申上げた通り長期取引の建玉が當限に廻つて受渡日が接迫した場合に、その受渡を欲せぬときは轉賣又は買戻を行つて取引を結了せねばなりません。併し此際その取引の結了をも欲せ

ぬ(即ち賣なり買なりを其儘持續したいと思ふ)ときは、この乗替賣買を行つてその期限を延長せしむるのであります。即ち買建(或ひは賣建)のあつた場合その當限の買建(或ひは賣建)を轉賣(或ひは買戻)すると同時に先物を更に買付(或ひは賣付)けるのであります。即ち形式上當限で一度その取引を結了し、更に新規に先限を建てたことになります。斯くして取引は事實上二ヶ月その期限を延長されたことになります。斯くして更にこの取引が當限へ廻つて來たとき同様の方法を以つて更に先限へ乗替える等、幾回も繰返して長く期限の延長を圖ることが出來ます。但し此場合その乗替の都度一取引が結了したと同様に取扱はれますから委託手数料を徴收さるゝことは申上ぐる迄もありません。

當限納會

當限の最終立會を云ふのであります。月末の受渡日

の前日が受渡準備日、この受渡準備日の前日が當限納會となつて居ます。前項の乗替賣買又は當限期間中で手仕舞する建株の處置方の御注文及受渡の御意向等は、必ず納會立會に間に合ふやう御指圖下さることが肝要であります。

賣買物件

株式長期清算取引の賣買物件は特に指定された上場株式(建株)に限ります。この建株に上場さるゝ迄には種々の上場條件に適することゝ商工大臣の認可を受くることになつてゐます。従つて特定の上場建株に限らるゝ譯で、現在は日本郵船株以下二百五十餘種に上り殆んど我國重要株式の大部分を含んで居ります。

賣買方法

取引所に於ける賣買取引は特定の取引員のみが賣買し得るのであつて、一般の賣買希望者はこれを取引員に委託し、取引員の手によつて取引市場(俗に場とも云ふ)に於て賣買を行つて貰ふので

あります。それで取引員はその店に於て受託せる注文の委託玉を取
纏め、取引市場(場)に臨んで委託通りの賣買を行ふのであります。

市場の立會

この取引市場に於ける取引員の賣買を稱して市場の
立會と申します。株式取引所は公定相場を作る機關でありまして、日
曜、祭日、年末、年始の休業、受渡準備日(午後半日又は全日)及受渡日を除き、
毎日午前は九時から、午後は一時から、立會即ち賣買取引を開始致しま
す。而してこの午前の立會を前場(本場とも云ふ)と稱し、午後の立會を
後場と唱えてゐます。前場の立會が商内多き爲め長時間に亘る時は
自然後場の立會開始は延刻され稀には休止さるゝこともあります。
立會は前後場とも取引所々定の建株立會順に依り前場に一回後場に
一回一銘柄毎に當限、中限、先限と寄付(フリ)相場を建て、再び當限に戻つて
順次先限まで大引(ビヤク)相場を建てるのでありますから、都合一日に一限

月につき四回其値段が決定さるゝ譯であります。

賣買單位

賣買取引の單位は十株でありまして、呼値は一株の値
段を呼稱致します。従つて五株とか六株とかいふ端數は清算取引に
於て取扱ひません。

鞘取賣買

長期清算取引の相場には期限の關係上鞘を生じます。

鞘とは當と中との間、中と先との間に出来る値段のヒラキであります。

例へば某月某日に於ける甲株の相場が

當	限	七十一圓二十錢
中	限	七十二圓二十錢
先	限	七十三圓十錢

であるとするれば、當と中との間は一圓の値ヒラキ、中と先
との間は九十錢の値ヒラキ、當と先との間は一圓九十錢の値ヒラキが

ありまして、此の値ヒラキを鞘と申します。

鞘取(はき)はこの鞘を稼がうとする方法であります。近い期限を買って遠い期限を賣る、即ち近い安値を買って遠い高値を賣るのであります。前表の場合、當限七十一圓二十錢を十株買って、先限の七十三圓十錢を十株賣つたとして、此鞘取の計算を示すと、當限の受渡に於いて

七百十二圓	甲株十株引取代
三圓四錢	手数料十株分
合計支拂金	七百十五圓四錢
の支出をなし、先限が當限へ廻つての受渡に於いて	
七百三十一圓	甲株十株渡株代
三圓四錢	手数料十株分
差引手取金	七百二十七圓九十六錢

を受取りますから、此の賣買利益金は十二圓九十二錢にして、其の利廻は日歩三錢一毛に當り、年利に換算して一割一分弱になります。

銀行に定期預金をして五厘五分の利子を得るのみであります。公債を買つては六分、社債を買つても七分にしか廻りません。然るに公社債を買ふよりも尙確實視される鞘取をして一割餘の利廻が得られるといふに至つては、甘すぎる程結構な利殖法と云はねばなりません。併し良き利廻になる鞘取の機會は絶えずあるものでありませんから、鞘取御希望の向は豫め御相談を願ひます。

兩 建

既に買建又は賣建のある場合、其の建株と同期限に買建に對して賣り、賣建に對して買の御注文が來ました時には其賣買を相殺して決済するのでありますが、御懸引の御都合上、さきの建株を手仕舞せず、新規に建玉として賣と買と双方を据置くことがあります。

これを兩建(ダブル)と申します。此場合の證據金は御建玉の一方の證據金丈けで宜しいのですが、手数料は無論双方要することゝなります。

二、短期清算取引(株式)

短期清算取引(單に短期とも云ふ)とは實物取引に長期清算取引の便法を加味した取引でありまして、均しく清算取引として取引所法に據つて許されたところの特徴「轉賣」「買戻」即ち差金授受の取引が行ひ得るのであります。原則としては毎日(前日の後場から當日の前場迄を一計算區域として取扱ひます)前日の後場から當日の前場迄の賣買を當日正午に受渡決済することになつてゐますが、別に繰延(オーバー)と云ふ制度がありまして、三十日間はその儘建株を持続することが出来ます。而して三十日の期限到來せる際更に受渡を欲せざる場合は、長期取引の

際と同じく「乗換」に依つて更に次の期限即ち三十日間を延長することが出来るのであります。(このことは後段詳しく述べます)

長期取引との相異

此の取引が長期清算取引と異なる妙味は、其賣玉なり買玉なりが毎日一定の標準値段(爲替値段)に引直されて(一)差金を毎日授受して行くこと、(二)建株の繰延に對して繰延料を毎日授受して行くこと、(三)何れの日に於ても受渡を爲し得ること、(四)立會が長期立會前から開始され長期終了後に終るの間常に行はれ、何時にても直ちに賣買を行ひ得る等であります。

此取引の創始は大正十三年であります。開始以來極めて理想的取引であるとの稱賛を受け、僅か拾餘種に過ぎない銘柄に拘らず、日々の賣買出來高は驚くべき數量に達し、二百五十餘種を銘柄とする長期取引を遙かに凌駕する勢ひであります。何故にこの取引が斯く好評を

博し賣買般盛を極めつゝあるのであるかと申しますに、前段申述べましたその特徴が長期取引に比して遙かに賣買に便利であり、大いに委託者に歓迎されて居るからであります。

第一に證據金が安く、少ない元手で思惑が行ひ得る。次に市場開市中絶えず賣買が行はれて居るのでありますから、何時にても轉賣買戻を行ひ得て、一朝事變に際會して騰落とも激變ある場合、長期の循環的時間を待つに引換え短期なれば即時に迅速に賣買し得るといふ、長期取引とは著しく相異した特徴を持つて居るのであります。随つて是等の特徴が次第に歓迎され賣買を増加して参りましたのは當然でありまして、現物(實株)で買付けるより短期で買付けるが良く、長期で買建てるよりは短期で買建てる方が遙かに便利であると、賣買共に短期取引が利用され歡ばるゝやうになつて参つたのであります。

莫大の利益を得た實例

短期取引の特徴の一つである「何時にても賣買を行ひ得る」といふことが、如何に偉大なる力を持つて居るかといふことは、株式相場の騰落激甚なる際に一層明瞭となつて來ます。最近の例としまして大正十四年の暮から翌年新春へ掛けての棒上げ相場の際の如き、百圓二百圓といふ小資本を以て何萬といふ大金を攫んだ人が多數に及びました。是等は概ね短期取引に據つたものでありまして、僅か一日の中に買付轉賣等幾回とも限り無く行ひ得たことに依つてこの棒上げの利得をして幾何級數的に増大せしむることゝなつたのであります。

既に長期取引の項にて説明致しました如く、今日に於ける株式市場は、政治は勿論、經濟界に於ける百般の出來事等あらゆるものが影響し、其相場を動かすのであります。長期取引とは異り短期取引は市場開

市中間斷なく常に立會はれ賣買されて居るのでありますから、是等の現象は時々刻々にその相場の上に現はれて行きます。例へば外國に於ける政治經濟に關する入電、内地に於ける政治經濟等の變化は勿論のこと、生糸、米綿糸、砂糖等の商品市場、又は金融市場政治上の變化等、一々夫れが反應して變動作用を起し、一上一下、屢々面白い局面を書きま

す。
斯様に短期取引は常に賣買されて常に動いて居るのであります。故に前に述べました一朝事變に際會するか、或ひはその原因は當時未詳であつても相場が激變して來たといふ場合に、直ちにこの危険を避け、建株を處分して仕舞ふことが出來ます。長期取引に於て次の立會まで待たねばならぬのとは便、不便の差著しいものと謂はねばなりません。また自己の建玉が次第に有利に轉換して來た場合には、所謂利

乗せと申しまして、その利益を以て直ちに新規に建玉を増加し、益々利益の増大を圖るのであります。これも短期ならば一日中常に機會がある譯でありますから、相場の激變に當つては一日の内に數回の利乗せを行ふことも出來、所謂幾何級數的に幾層倍の利益を獲得することも出來るのであります。

即ち危険に瀕しては迅速にこれを避けることが出來、有利に轉換しては莫大の利得をも撻ち得る、といふ實に株式取引に於ける最大の妙味を存する取引であります。即ち投機的思惑としての最大の效果は、この短期取引に於て最も遺憾なく發揮せられて居るのであります。

現在建株

短期取引に上場されてゐる現在建株(銘柄)は左記十二種であります。此建株は關係者の希望や四圍の状況に應じて時に變更廢さるゝことがあります。(立會順)

第一部 東京株式取引所新株新東株、鐘淵紡績新株(新鐘紡)、大日本製糖第二新株(日糖二新)、大連取引所株

第二部 日本郵船新株、大日本麥酒新株、淺野セメント新株、日本産藥株、日本石油株、南滿洲鐵道新株、東京電燈株、富士製紙新株

立會時間

短期取引の立會は長期取引と同様、日曜、祝祭日及年末年始の休日を除いた取引所の一般營業日に毎日行はれますが、更に長期取引の休止日、即ち受渡準備の爲めの休止や、受渡日の休止にも行はれるのであります。而してその立會時間は、前場後場とも長期取引の立會十分前に始まり、長期取引の立會後に終るを原則と致します。然し長期取引の立會時間が案外に短時間に終りその終了時刻の早い場合は、午前は十時三十分迄、午後の場合には午後二時二十分迄取引を行います。

但し長期取引の受渡日に於ける午後は、立會時間を一時間に限られて居ります。また長期取引の後場立會が延刻された場合、連れて短期取引も延刻さるゝことは申す迄もありません。

前場に於ける短期取引の寄付立會は、即ち當日に於ける孰れの取引にも先だつ最初の立會であり、最初の相場を決定するものでありますから、其日の相場の形勢を卜する意味に於て最も興味を以て注意さるゝのであります。

賣買方法

短期取引の立會は前後場ともその最初(寄付)及び最終(大引)の賣買を、長期取引同様競賣買(糶り合ひ賣買)の方法に據るのであります。賣方と買方とが互に値段を糶り合ひ、双方の合致せる値段で相場が決定さるゝのであります。

寄付立會と大引立會との間に於ける賣買は、所謂歩み賣買、又は「ザラ

場商内と申しまして、賣方買方個々の相對賣買が行はれるのであります。即ち個々の賣なり買なりが、其相手の買なり賣なりと、値段と株数の一致を見る度び毎に個々に賣買が成立し、間斷なく(賣買の少ない建株は往々途絶れます)連續されて行くのであります。

而して是等の賣買値段(歩み相場)は、寄付及び大引に於ける競賣買の決定値段とも、決定後直ちに市場に發表(揭示)されます。

猶此際鳥渡申上げて置きますが、取引所に於ける市場の立會はこれを一般に公開致して居りますから、何時にても參觀することが出来ます。併し參觀券を要しますから御希望の方は其旨御申出られ、弊社の係りから參觀券を御持參下さる様願ひます。

繰延期限

短期取引の賣買株は毎日受渡を以て決済する原則であることは前に述べましたが、然しこれは「繰延」と云ふ方法がありまし

て、三十日間はこの受渡を繰延することが出来ます。

即ち賣方は株を渡して代金を受取り、買方は代金を支拂つて株を引取る代りに、買方は株代金に對する金利を支拂ふ意味で、翌日までの繰延料を支拂ひ、賣方は株代金を猶豫する意味で翌日までの金利に代る繰延料を受取つて、株の受渡を繰延べるのであります。繰延料は後段述べるが如く賣方から支拂ふ場合もあります。

斯くして繰延べ得る期限は三十日間であります。若しこの三十日の繰延期間内に望むところの相場が出現せず、更にその建玉の維持を欲する場合は、長期取引の處で述べましたと同様の「乗換」を行ふのであります。これは長期の際と同様に一度轉賣又は買戻を行つて更に新規の賣建或ひは買建を行つた形式の下に、賣も買も一つ値段で(所謂バイカイをつけると申します)乗換へるのであります。その乗換へに建

玉は更に三十日間、前同様繰延を続け得る譯であります。此場合手仕舞されたる玉の損益を清算し、乗換へられたる新規玉に對する證據金は常に規定率だけ完全に御預り致します。(證據金の項を御参照下さい)

尙短期取引に於ては、特に御指定のある迄は、その建玉の維持を望まらるゝものと看做し、期限到來毎に「繰延」並びに「乗換」を續行する慣習になつて居ります。此點は特に御承知置を願ひます。

繰延料

繰延に對し繰延料を支拂ふことは前に述べた通りであります。併しこれは買方のみが支拂ふとは限りません。即ち毎日前場引後に於ける受渡に於て買方がその受株の猶豫を希ふとき、その株代金を翌日の受渡迄猶豫して貰ふ意味に於て、これが金利に相當する繰延料(日歩)を支拂ひますが、若し此際買方の受株希望者が非常に多

く、賣方に於て渡株の備はぬ時は繰延料が無いこともあり、また逆に賣方から買方に繰延料を支拂ふこともあり、此場合前者を「順日歩」と稱え、後者を「無日歩」及び「逆日歩」と稱えます。

爲替勘定

これは繰延られたる賣買建株を整理する方法でありまして、取引者間の危険を緩和し、賣買建株に對する損益觀念を離れて、極めて冷靜に懸引を爲し得るといふ、短期取引のみの有する妙味であり、特色であります。その方法は毎日前場終了後、前場大引値段を基礎として一定の標準値段(爲替値段)を定め、従前から繰延られて來たもの及び前日の後場から當日の前場中に新規に建株せられたものを、この標準値段に引直すのであります。

即ち従前から繰延られて來たものはその前の標準値段、前日の後場から當日の前場迄に建株せられたものに就ては、その新規の賣建或ひ

は買建値段と、この標準値段との差額を相場が下つた場合は賣方が利益で買方は損勘定となり、相場の上がつた場合は買方が利益で賣方の損勘定たることは申すまでもありませんが、この損益双方ともその受取勘定又は支拂勘定を計算して授受するのであります。

斯くして短期取引は毎日正午に行ふこの爲替勘定の結果、當日迄の受取勘定或ひは支拂勘定等の計算が行はれ、其建玉は常に値段を新たにして行くのであります。

斯く差金の授受計算を行ふことを爲替勘定と云ひ、その標準値段を「爲替値段」と申します。

上述の如く爲替勘定は毎日行はれ、出入の計算を致して居りますが、それを一々御得意様に御報告申上ぐるといふことは甚だ繁雜となります。故に日々の爲替勘定、繰延料の出入は弊社の帳簿上に計算を建

て、置き、御建玉が乗換、轉賣、買戻又は實株受渡等に依つて、その取引が終了毎に御報告申上ぐることにしてゐます。

後場に於て相場が著しく急變した場合には、後場引後に於て更に爲替勘定を遣り直すこともあります、これを「二度勘」と稱へます。

鞘取賣買

短期取引には長期取引に於けるが如き限月がありませんから、限月を異にする鞘取は出来ませんが、實物との鞘や、長期どの鞘を利用して鞘取賣買を行ふことがあります。又繰延料の多寡に應じて、掛け外づしを爲し鞘取を行ふこともあります。長期取引に於ける場合と同様、良き鞘は常にある譯ではありませんから、鞘取り御希望の方は一應御相談を願ひます。

三、實物取引(株式)

實物取引とは従來現物取引と云はれたもので、賣買約定後直ちに受渡を行ふものであります。即ち持株を現金に換える場合、また現金を株に換える場合に利用されます。

賣買物件 長期取引や短期取引の如き制限は無く何種類に拘らず自由に賣買を行ひ得るのであります。

賣買單位 賣買取引の單位は普通拾株になつて居りますが、市場取引量の増加に伴ひ最も出合の多いのは五十株であります、又弊社では拾株未満の場合でも出來得る限り御用を便じて居ります。

受渡期限 受渡は原則として約定成立直後であります。然し御買入の場合弊社に手持品の無いときは現品取寄せ期間中受渡の御猶豫を願ふこともありませす。これが爲め取引所に於ては受渡猶豫期限を十五日間と定めて居ります。併し弊社には常に多數の取引出合が

ありますから、特に迅速に取寄せ差上げることが出來ます。

立會日 此の取引は長期取引或ひは短期取引の行はるゝ立會日に、何時にても賣買が行はれます。併し本來が其の時の相場による相對賣買でありますから、別段立會時間などを定められず、市場の開市中は相手を需めて何時にても賣買が出來る譯であります。

中値相場 此の取引には公定相場と稱すべきものはありません。弊社發行の株式日報には、毎日最も正確なる標準値段を掲載して居りますが、これは所謂中値相場でありますから、御取引の場合には多少値段の異なることのあるのは免れないのであります。此點は豫め御含置を願ひます。

入札賣買 主として端數株の賣買を圓滑ならしむる爲めに、毎月末一回長期受渡準備の日に行ひます。賣買御希望の時、好出合に乏し

い場合、比較的安値を拾ひたい場合、自己所有の端數株を纏めたい場合などには極めて好都合であります。

國債賣買の方法

東京株式取引所に於ける國債取引は政府の發行する内國債、外國債を初め、府縣及市等で發行する地方債及び各種銀行會社の發行する會社債、銀行債に至るまで、殆んど總ての債券類の賣買を行つて居ますが、其取引法は株式と同様長期清算取引と實物取引とに別れ、唯現在では未だ短期清算取引が無い丈けであります。

而して其實際取引方法は株式の各取引と殆んど同様であつて、此處では株式と相違する點丈けを述べて重複する點を省略致します。

裸相場

公債、社債の取引には裸値と申しまして、各債券に依つ

て定められた利子は、債券の相場とは全く切り離して別勘定とするものであります、即ち最近に利札の取れた翌日から其次に受取るべき利札の金額を日割で計算し、受渡される當日までの経過利子を買手から賣手へ支拂ふことであります。

一、國債長期清算取引

相場銘柄

長期相場銘柄は内國債の甲號五分利、特別五分利、第一五分利、(明治年代に發行された雜種公債)、第二五分利(大正年代以降發行されたもの)、中、据置期間を経過した雜種公債、第三五分利(發行後未だ据置期間中の雜種公債)、第一回四分利、第二回四分利、短期公債(各其償還期限たる何年何月ものど表示するを以て銘柄と爲すもの)、佛貨四分利等を主たるものとして、外に地方債、社債を合せて、現在は四

十二種ありますが、償還期限の経過、新規発行等に依つて上場銘柄の増減が行はれます。

単位と呼値

長期取引の賣買單位は、始め額面五千圓でありましたが、取引量の増加に連れ現在は、内國債は額面壹萬圓、佛貨債は一萬法でありまして、呼値は内國債額面百圓についての相場、佛貨債は額面五百法の相場を以て賣買單位とします。

取引の期限

現在二ヶ月の期限でありまして、これを二十日毎の三期に區分され、期限の近いものから、當限、中限、先限の稱へがありまして、受渡日は一月三月五月等の奇數月が各十一日一回、二月四月六月等の偶數月が各一日、二十一日の二回。新甫發會は受渡日の翌日と定まつて居ります。但し受渡日が休業日なる時は前日に繰上げられ、發會日が休業日なる時は翌日に繰下げられる等、株式の長期清算の限月關係と同じ仕組で御座います。

立會方法

立會方法は競賣買でありまして、午前二回、午後二回都合四回行はるのであります。立會時刻は前場寄付九時三十分、前場大引十時四十分、後場寄付午後一時、後場大引二時十分であります。

本證據金

委託證據金は第一種(國債)額面百圓に付き金一圓五十錢、第二種(地方債、社債)及第三種(外貨債)額面百圓又は相當額に付金三圓であります。

尙追證據金其他に就いては株式長期取引の場合と同じ様に取扱ふ規定になつて居ります。

手数料

委託手数料は、國債額面百圓に付十二錢五厘、地方債は十七錢五厘、社債は二十二錢五厘になつて居ります。

二、公債社債實物取引

公債社債の實物取引は、株式の實物取引と同様に、實物と代金との交換を目的とするものでありまして、取引物件の種類は長期清算上場の銘柄を第一順位として、公債、地方債、銀行債、社債等のあらゆるものが賣買出来ます。其の立會時間は

午前十時

(前場第一立會)

午前十時廿分

(前場第二立會)

午後一時卅分

(後場第一立會)

午後一時五十分

(後場第二立會)

の四回であります。此の立會時間外何時にても賣買の御相談に應じます。

御注文の仕方

注文書の書方

は極めて簡單でありまして、御注文と同時に證據金を御差入れ下されば早速に手續を致します。併しこの御注文の際は正確の上にも正確を期して戴きませんと往々にして間違ひの生ずる恐れが御座います。故に御注文毎に次の各項に就ては特に念を入れて正確にして戴き度いのであります。

(一)取引種類 (長期、短期、實物、國債長期、國債實物等の區別)

(二)賣買物件(銘柄) (公債、社債、株式の區別、新株、第二新株、優先株等の區別) 一株

(三)期限 (長期ならば當中先の區別)

(四)數量 (賣買とも株式には幾十株公債には額面何百圓と其數量の正確を要す)

(五)賣又は買 (特に間違ひ無きやう御注意あり度し)

(六) 値段(成行又は指値) (成行き、指値の區別を明瞭にす)

(七) 指値使用期間 (長期短期實物を問はず指値には必ず其使用期間を決めて置くも)

(八) 住所氏名 (特に電信電話の場合など明瞭にして下さい)

成行賣買

御注文に際し其の値段に就ては指値の御指定と成行の場合とがあります。成行とは時價の成行と云ふ意味で、市場に於ける相手のあり次第で賣買を行ふことで御座いますが、相場の高いとか安いとかの見込みが付いた際その機會を逃がさないやうに斷乎として出動する場合、多くはこの成行賣買に限りません。單に「賣」とか「買」とかの御指定のみで別に條件の申添へがなければ總て成行で取扱ひます。

指値賣買

指値賣買とは賣又は買の値段を御指定になり、その値段の現はるゝを待つて賣買を行ふものであります。長期取引及び短期取引に於ては取引所に於て發表する公定相場が御指値と合致する

時、極めて稀なる場合を除くの外その御注文は成立して居るのであります。稀なる場合と申しますのは、御指値が其日の最高値或ひは最低値である場合、御指値と同様の賣買が行はれましても賣又は買は買は株數の剩餘あつて賣買成立せぬといふことがあるのであります。此點は特に御承知置きを願ひます。即ち平常賣買の極めて少ないものに就ては百株の賣付又は買付にも數日を要する場合などあります。

尙御指値の際、賣注文に「何圓臺」「何圓以上」などゝある場合は、その「何圓迄」として取扱ひ、また買注文に「何圓以内」「何圓以下」などゝある時は孰れもその「何圓迄」として取扱ひ、買注文の「何圓臺」とある場合は其の「何圓九十錢」までとして用ゐることになつてゐます。

次に御指値に「位」「榻」「内外」「前後」「見計」等申添えある時は、百圓未満のものは貳拾錢だけ、百圓以上のものは五十錢だけ取計つて取扱ひ

ます。

指値使用期間

御指値の場合、其の指値の使用期間を御申添えになることが大切であります。成行の注文であれば直ちに成立しますが、指値の場合はその御指定値段の出現まで待たなければなりません。それ故特に期限を御指定なければ「出合」と申しまして相場がその指値と合致して出来るまで注文を用ゐることになつてゐます。

尤も「短期」「實物」の御注文に就ては月でも代りますれば成るべく御意向を伺がふやうに注意して居りますが、御注文の際に「出合迄」とか「今週中」とか、「何日迄」とか、又は「今月中」とか御指定下さる方が便宜で御座います。

注文の訂正と取消

既に御指値の注文ある相場の模様又は見込によつて指値を變更なさるゝ場合は、「銘柄」を明示して「前注文訂正」と

御断りの上で更に指値又はその使用期限を申付け下さい。また取消しの場合も「銘柄」を明示して何株の注文は取消すと御断り下さい。れば、注文が成立してゐない限り直ちに取消します。

長期取引の注文

長期取引には前に申上げた通り當限、中限、先限と期限の區別がありますから、指値或ひは成行の御指定と同時にこの區別を明示して戴きます。其他前段申上げました注文の必要事項は悉く必要であります。例へば

期限	銘柄	株數	指	値	賣買	有	效	期	限
先限	新東株	參拾株	百〇一圓	(又は成行)	買	三月二十日迄用	(成行なれば不要)		

としてこれに住所氏名を明確にして戴けば申分ありません。また既に賣又は買の建株ある時は、賣買の處へ「賣埋」又は「買埋」として戴くので

あります。

寄引の指定

既に申上げました通り長期取引は一立會に、寄付と大引と二値段がつきますが、成行注文は寄付で賣買致します。併し二十株以上の注文には寄付と大引とに分割して賣買することの御指定ができます。三十株とか五十株とかの場合には寄二十、引十、また寄三十、引二十、と云ふ割合で取扱ひます。

斯くすることは賣買を片寄せず平均を保つ譯ですから御注文の場合株数の多いほど寄引に分割賣買の御指定をなさることが好いと思ひます。

また指値あるもので寄引と分ける場合に、寄付にて出合はず大引にて出合ふときは、全部を大引で賣買することになつてゐます。

また指値の注文で指値丁度で相場が出合つて居りましても、市場に

於ける相手の關係で注文株数の全部が成立しない場合があります、さうした未成立の株数は次の立會から引續き指定の有効期間まで相用ひます。

分割の賣買

注文株数が多量の爲め一立會に於て賣買することは相場を急變せしめて不利と認むる場合は、これを分割して數立會に賣買することも出来ます。これは主として成行、または寄引にて賣買し、指値をしない場合に多く採る方法であります。

長期の期限指定

長期の注文は、注文の際に、當限、中限、先限の名稱を以つて致しますから、一受渡を決済毎に中限は當限へ、先限は中限へ、さうして新甫の先限が出来て順次に名稱が繰上げられる關係上、總て注文は受渡期日を限りとして一旦取消し、改めて注文を戴くことになつて居ます。尤も豫め「期限越用ゆる旨申添へがあれば當然繼續致して

用ひます。

短期取引の注文

短期取引の注文として特に他の取引と異なるところは、「短期」なることを明確に指示して戴くだけでありまして、其他は一切長期取引と同様に、銘柄、株数、値段の指定（指値）又は成行、賣（又は買埋）、又は買（買埋）及有効期間を明瞭に示して戴くのであります。

實物取引の注文

實物取引の御注文は既に實物取引の項に於て述べました如く、株式は十株以下の端數株でも取扱ひますが、普通十株を單位とし、最も出合の多いのは五十株を單位とする賣買であることを御承知置き願ひます。注文の際に於ける必須事項は前掲の内長期取引に關する期限を除く外、悉く長期短期同様に必要であります。實物取引は直ちに受渡を行ふを目的と致しますから、御注文に際しては別項の「受渡」「荷爲替」「委任狀」等の欄を御熟讀あつて、豫め御間違これ無

きやう御注意を願ひます。

通信による注文

御注文は書面又は電信電話等何れによるも差支えありませんが、必ず前述各項の要點を明確にし、簡明にして直ちに理解し得る様御注意願ひます。

また電信注文には弊社と取引開始の上にて弊社専用の電信略語を差上げますから、これを使用して戴くと双方に便利で御座います。尙電信で御注文の際は電信遲着又は電文錯誤等の悞れがありますから御面倒でも御發電と同時に必ず御注文の内容を書面で御申越下さる様に願ひます。

また書面の注文はなるべく他の用件を別紙にして戴くやうに願ひます。立會中は殊に敏活正確を要する業務ですから、不要又は不急の文字が多いと甚だ差支へることが多いのであります。

それから通信による注文は弊社へ到着の時間に相當の餘裕を見越して發信して戴かないと間に合ひ兼ねることがあります。斯くては折角の好機會を逃がすことになりす。わけて長期取引は各種株式の立會順序(株式日報及新聞に掲載される順序)が定まつて居ますから、立會の遲速を豫め御承知置き下さることが必要で御座います。

報告書と承諾書

注文が出合ひ賣買が成立しますれば、電信又は郵便を以て直ちに御報告致します。また規定の書式に基いて「報告書」長期及短期の場合又は「約定書」(實物取引の場合)を御送り致しますから、御注文と相違の有無を御調べの上、「承諾書」(長期及短期)又は「約定書」(實物取引)に御記名御調印の上直ちに弊社に御廻送を願ひます。斯くすることは双方に取引上の間違ひを防ぐ爲め必要で御座います。

委託證據金

前に述べました如く、取引所に於ける取引は必ず其資格を持つ取引員に限られて居ります。故に取引員以外の方はその賣買取引を取引員に委託せねばなりません。この委託御注文に際しその取引を保證する意味に於て必ず證據金の御提供を願ふ規定になつて居ります。これを委託證據金と申します。

委託證據金は長期取引、短期取引の御注文に際し必ず、御注文と同時に、或ひは前以つて御預りすることになつて居ります。地方からの注文で證據金不着の爲めにその賣買の成立を差控へることがありますから、此點は特に御注意を願ひます。また實物取引に就てはその總買代金又は現株の御提供なき場合、總代金の約二割を手付金の形式に於

て御預り致します。

是等の證據金及び手付金には「預證」を發行いたします、取引結了の際
は不足金の無い限りその預り證引替えに是等のお預りを御返却申上
げます。

尙御送金の方法は、弊社取引銀行の當座へ御振込み下さるを最も便
宜と致しますが、詳細は「受渡」の項にて御承知を願ひます。

本證據金

これは單に「本證」或ひは「證據金」とも申しますが、要する
に後段述べるところの「追證據金」「増證據金」と區別する爲め本證據金
と名付たのであります。この證據金の金額はその株式或ひは公債等
の價額に據つて異なり、また相場の変動に隨つて時々變更致します、併
し法規に基き取引所に於て決定さるゝものでありますから、取引員に
於て勝手に減額することは出來ないことになつてゐます。

證據金は變更の都度、別に證據金表を印刷して居りますから御申聞
け下されば、直ちに御送り致します。

追證據金

これは單に「追證」とも申しますが、相場の変動によつて
建株が證據金の二分の一以上損失の計算となつた時に、其損失額に相
當する金額を差入れて戴き、證據金に追加補填するので御座います。
尤も一旦追證據金差入済の後に相場が追證據金額以上復歸した場合
には、御請求によつて御返戻するもので御座います。

この追證據金は最も迅速に即刻差入れて戴くべきものでありまし
て、萬一入金が無ければ勿論、遅延致しますときはその建株を適宜に
處分して仕舞ふことになつて居ります。

増證據金

相場が激變して不穩の状態と認められた時、又は受渡に圓
満を缺く懸念のある場合には、證據金を俄かに増額して賣方買方双方

からその増額を追徴するのであります。これを増證據金と云ひます。この額は本證據金の三倍以内と云ふ規定になつて居りますが、斯かることは買入とか、賣崩しとか、極度に人為相場の実現を企畫するやうな場合に、これを調節制御する手段として行はれるものでありまして、極めて稀なることであります。

代用證券

證據金は元來現金を以て御納入を願ふのであります。が、御都合に依つては公社債又は株券を以て之に代用することも出来ます。此場合は其證券の時價の七割とか八割とかを以て代用價格に見積ります。又株券にての代用は東京の取引市場で賣買取引の行はれて居るものを以てすることになつて居ます。

さうして株券には必ず「賣渡委任狀」及「承諾書」を添付することになつてゐます。委任狀及承諾書の書式は後段に掲載して置きました。

委託手数料

長期取引及び短期取引の賣買は、總て規定に従ひ委託手数料を戴きます。また實物取引は多くの場合御手取りの値段で賣買約定致しますから、これには手数料として戴きません。

手数料率は法規に基き取引所の制定するものでありまして、別に印刷したものがありますから御申聞け次第差上げます。

長期手数料

新規に賣付又は買付が成立した時、その相場を標準として手数料が定まります。その後如何程相場が變動致しましてもこの手数料には變動はありません。さうしてその新規建玉が轉賣又は買戻さるか、受渡日が到來して受渡され、其取引が結了するとき初めてその決まつた一つの手数料を戴くのであります。

尤も長期取引の期限が到来して、更に乗換えられた場合はその新規建の分には別に手数料を戴きます。

短期手数料

短期取引の手数は、長期取引の場合と異なり、その賣又は買の新規建株の際に一回、更に轉賣(賣埋)又は買戻(買埋)の際に一回と都合二回別々に戴きます。尤もその建株を受渡せらるゝ場合は前の新規建株の際の一回丈けしか戴きません。

従つて新規建株の際の手数は、その成立値段を基礎として定められ、轉賣買戻の際の手数は、その轉賣買戻の際の値段を基礎として決定するのであります。

尤も繰延期間が到来して、更に乗換えられた場合は、その新規建の分には別に手数料を戴きます。

實物手数料

實物取引に對する手数料は、法規に基き取引所の規

定したものがありますが、賣買の圓滑を圖る上から、多くの場合御手取り値段で賣買を約定いたし、別に手数料を戴かぬ慣習が用ゐられています。弊社もこの慣習に随ひ別に手数料は戴きません。

受 渡

公社債及株式の受渡をすることは、所有權の移轉を行ふ手續の一ですから取引上最も重要なことでもあります。御來社の上でするのは一番正確であります。遠隔の地との受渡には、買代金を御送附下さるか、御賣却證券を御送附下されば其代金なり、證券なりを直ちに御送り致します。さもない時には總て銀行へ託し「荷爲替」を取組み受渡を決済することになります。

長期取引の受渡

長期取引に於て受渡を望まるゝ方は、遅くも當

限最終立會日(當限納會と云ひ大抵休日を除き受渡日の前々日)の前日に御通知を願ひ、同時に現株を御渡しになる時(賣方)はその株券或ひは公社債の御提供引取らるゝ場合(買方)はその買代金の御提出を願ひます。

若し受渡の御通知も無く、また乗換手仕舞の御通知も無かつた場合は、慣習に依り受渡を爲さる御意志と看做し、御建株を處理することになつてゐます。

御渡株は十株毎に一通宛の賣渡委任狀(後段揭示してあります)を御添付願ひます。

受株を「荷爲替」として送附する場合は、之に要する費用(銀行手数料日歩等)は一切御引取りになる方の負擔であります。尙荷爲替に就ては後段「荷爲替」の項を御照讀下さい。

また受株後直ちに名義書換へを望まらるゝ方は、其旨御申聞け下されば便宜弊社に於て代理取計ひ致します。その手續に就ては後段「株式名義書換と委任狀」の項に詳述してありますから、御照讀を願ひます。

早受渡制度

長期取引はその規定された受渡日に受渡を爲すを原則と致しますが、別に便宜の方法と致しまして賣方の爲めに、早受渡の制度が定められて居ります。これは受渡日以前に何時にてもその賣繋ぎの現品を提供して御申込みあれば、取引所から取引所發行の「先日附(賣付限月の受渡日の翌日渡)手形」を取得し、之れを割引の方法によつて容易に現金化することが出来るのであります。

併し此の制度は取引所に於て制限額が定められてありますから、株式の銘柄により、或ひは金額によつて御取扱ひの出来ない場合もあります。それ故この便法を望まらるゝ際は、豫め其旨御申出を願ひます。

短期取引の受渡

短期取引の受渡は、特に御申出なき限り御建株は繰延の取扱ひを致しますから、御希望の方は前以て其旨御申出を願ひます。

元來短期取引の受渡は、毎日午前十一時迄(土曜日は午前十時迄)に受渡株を取引所に申告し、現株は午後二時迄(土曜日は正午迄)に受渡するのでありますから、遅くも其時間より一時間前迄に御指圖と同時に買受代金或ひは現株の御提供を願ひませんと、其の日の受渡には間に合ひません。此の點を豫め御注意下さるやうに願ひます。

其他に就ては總て長期取引の受渡に於けると同様に取扱はれます。

實物取引の受渡

實物取引は現品の賣買でありますから必ず受渡の行はるゝものであります。随つて原則と致しましては、御注文と同時にその現品或ひは買代金の御提供を願ふのであります。また前

段申上げました通り、手附金のみを御預りしてその賣買注文の出合ひを待つこともあります。

故に御注文の賣買が出合ひましたならば、弊社からの通知を受けせらるゝと同時に、直ちに賣方は現株(又は公社債)を、買方はその買受代金を御送附下さるやうに願ひます。弊社はその到着を待つて直ちに現品又は代金を御送附いたします。

また受渡後直ちに名義書換を望まらるゝ方は、長期取引短期取引同様委任狀印鑑等御添付の上その旨御申出を願ひます。それ等の手續は後段「株式名義書換と委任狀」の項に詳述してあります。

御送金の方法

弊社へ御送金下さる場合は、通常送金の手續に據るよりは、弊社取引先の銀行へ當座振込として戴く方が最も安全確實であります。弊社から御送りする場合にも御便宜な銀行を豫め承り

置く方が好都合であります。

左に弊社の取引銀行を掲げて置きます。

第一銀行、三菱銀行、三井銀行、日本橋支店、安田銀行、同小舟町支店、川崎
 第一百銀行、同日本橋支店、野村銀行、東京支店、第三銀行、愛知銀行、東京支
 店、東京徳田銀行、名古屋銀行、東京支店、

尙御都合によつては普通銀行爲替でも、郵便爲替でも宜しう御座い
 ます。

荷爲替

現品を御送附になる場合、最も安全で然かも簡便なる
 方法は、銀行の手を通じて荷爲替を取組んで戴くことです。殊に遠隔
 の地に在つて御持株を處分なさるゝ様な場合には最も適切であると
 存じます。即ち銀行へ御出でになつて、弊社宛の荷爲替手形を御作成
 になり、現品を添えて御依頼になれば、僅かな手数料で取組んで呉れま

す。

また現品御引取りの場合にも豫め御指定下されば、弊社で荷爲替を
 取組みますから、其期日に指定された銀行へ代金を御拂込になれば、現
 品を御受取りになれます。直接弊社取引銀行と荷爲替取組の便宜な
 き地方からでしたらば、豫め代金全額の御送附を願ひます。

尙代金引換郵便は御断り致します。

また茲に御注意申上げ度きは、荷爲替にて御受株中、其株が決算締切
 等に依つて配當金等が受取れぬことになる見越される場合は、豫め
 「買受委任状」及び「印鑑」の外に「賣渡委任状」（既に委託主の名義に書換後
 は賣渡委任状なくては荷爲替取組が出来ません）を同時に御送りにな
 れば特に「名義書換」をした上で荷爲替を取組む様に御便宜を計ります。
 荷爲替の費用は實物取引の外總て委託主の負擔となりますこととは

既に述べた通りであります。

株式名義書換と委任状

株式の名義書換と之れに要する委任状の作成は株式賣買に於いて最も大切なことであり、是非心得置かねばならぬところであり、特にか、特に茲に申上ぐることに致します。

名義書換

總ての取引を通じて、受渡後御買受になつた株式は直ちに名義の書換を行ふことが肝要であります。これは配當關係、拂込關係、増資新株關係、其他將來に關する權利などに就いて、書換を忽がせにせる爲め故障が生じ、其權利が喪失したといふ例が往々にして起るのであります。故に御買受の株式に對しては速かにその手續をなさる様に御勧め致します。

其手續は「名義書換請求書」に「印鑑」(各用紙とも各會社に大抵専用のものが備付けてあります)及賣渡人の委任状を添え、書換手数料と共に其會社に御提出になれば宜しいのです。

尤も地方に本社のある會社でも東京に支店とか出張所があつて、名義書換の事務を取扱つて居りますから、豫め御下命あれば便宜上弊社で書換手續の代理を致します。(書換費用は申受けることになつて、ます)其節は「委任状」と「印鑑」を御送附下さい。

若し書換手續を爲す餘日あるに拘らず、打棄て置かれて、其が爲め配當金請求其他の權利を失はれる様な事があつても、遺憾ながら弊社はその責を負ひませぬ。此邊は充分御注意を願ひます。

委任状

委任状は其記入の文字の書誤り、脱字、印鑑の相違等は勿論、少しの間違があつても無効になりますから、特別に注意して戴き

度いのであります。

若し弊社へ委任状を御託し下さる様な場合には上部欄外に御棄印を願ひ度う存じます。今左に委任状作製に就いての注意事項を列挙し、御参考に供します。

- (一) 株式名は略稱を用ゐず、必ず「株式會社何々銀行株式」「何々株式會社株式」と楷書で御記載のこと、新株式にも「第二新株式」「第三新株式」「優先株式」等が
ありますから若し不明のときは記入せぬこと
- (二) 新株式は必ず「何々株式會社新株式」と記入すること
- (三) 株数を示す一二三十等の數字は必ず壹貳參拾と書くこと
- (四) 婦人名義の株式は必ず會社届出の御本名以外の字を書込まぬこと
- (五) 未成年者妻等の無権力者は親族會議夫等の同意を得たる事を證明する書面を添付すること
- (六) 空欄餘白の部分は其儘とすること

- (七) 代人の氏名と年月日とは絶対に記入せぬこと
- (八) 賣渡を譲渡と書かぬこと
- (九) 會社へ届出の印鑑を押捺すること
- (十) 収入印紙を貼用し消印を忘れぬこと
- (十一) 上部欄外に棄印を押捺し萬一誤記の場合訂正が出来るやう備え置くこと
以上

尙參考迄に各種委任状の雛形を左に掲げて置きます。

貳錢收
入印紙

委任状 (普通買賣)

一 拙者ノ名義ヲ以テ ナ部理代人
 ト相定メ左ノ權限ヲ代理爲政候事
 一
 候ニ付名義書換其他之ニ關スル一切ノ件
 右委任状仍而如件

住所
氏名

貳錢收
入印紙

委任状 (名義書換停止中配當附)

一 拙者ノ名義ヲ以テ ナ部理代人ト
 相定メ左ノ權限ヲ代理爲政候事
 一
 昭和 年 半期利益配當金受取ニ關スル
 一切ノ件
 右委任状仍而如件

住所
氏名

貳錢收 委任狀 (株式會社ノ新株ヲ
買入シタル場合ノモノ)

一 拙者ノ名義ヲ以テ 代理代人ト
相定メ左ノ權限ヲ代理爲致候事
一 第壹回拂込領收證ヲ以テ
本株券ト引替ニ關スル一切ノ件
右委任狀仍而如件

住所
氏 名

(前掲の各用紙は御申越次第御送り申上げます)

參錢 承諾證書

一 (銀行及會社ノ株式名稱ヲ書クトコロ)
右ハ拙者所有ノ處貴股ニ使用ヲ許シ候ニ於
テハ貴股ノ都合ニ依リ他へ賣物トシテ御差
入ノ儀及名義書換ノ儀承諾致候然ル上ハ右
御返附ニ際シ記號番號記名又ハ券面等ニ差
異有之候共同種同數量ノモノナル以上ハ毫
モ異議無之候依テ承諾證書如件

氏 名

仕切計算

長期取引の買建株を轉賣賣埋し、賣建株を買戻(買埋)し、又は乗換等に依り、其の取引が結了した時は、仕切計算を致します。そして此の計算に依り御利益ある時は、其の利益の内から規定の手數料を差引き、殘額

を御渡し致します。同時に證據金の御請求があれば、これも預證を御返附願つて御返し致します。又御損失の時は、其の損失高に規定の手數料を加算して御請求申上げますから、御入金を願ひます。

短期取引に於ては、前項長期取引に於ける仕切計算の外に、毎日授受されます繰延料の加除が行はれる譯であります。

代用證券を證據金として御預りの場合、御損失金の請求を申上げ、御入金なき時は、御預りの代用證券を時價にて處分し決濟することがありますから、豫め御諒承を願ひます。證據金を以て仕切損金に御充當の場合、及び證據金返戻御請求の際は、弊社より差出の證據金預書の御返却を願ひます。

長期取引及び短期取引の手仕舞による計算は、取引所との間には前場後場の立會に依り、翌日又は翌々日に清算する規定はありますが、弊

社では委託主の御請求により、總て是等の勘定を何時にても致します。

七四

募集及引受

弊社は、各種有價證券の賣買取引業務の外、公社債及株式等の引受募集を取扱つて居ります。

公社債の募集に就いては、乗換應募でも、現金應募でも精々勉強して御便宜に御取扱ひ申上げます。又地方債等の御發行に際しても、其發行引受の御相談に應じます故御照會を得度う存じます。

株式の引受募集取扱には多年の経験がありますから、精々御利用御申込の程願上げます。

金融及仲介

顧客の御便宜を圖り、株式、公債及社債等を擔保としての御金融を簡便に御取扱ひ致します。證券の種類により八掛乃至九掛までの御融通も致します。

尙顧客の御便宜を圖り、その擔保品の範圍を廣くし、各自の御希望に副ふ様に努めて居ります。また金融上の仲介も致しますから一切御相談下さる様願ひます。

取引所の早受手形の如きは極めて低利に仲介致して居りますから、これまた御用の節は御遠慮なく御申越下さる様に御願致します。

調査部利用

御投資の御便宜を圖る爲め調査部を設けてありますから、精々御利用を願ひます。

七五

經濟界が益々進歩發展するに伴ひ、有價證券はその種類を増し、取引量も増加して行きます。従つて其内容も益々複雑となるを免れ難く、證券への御投資に當つては充分な調査資料に基いて研究される必要が生じて参りました。併し顧客様が一々其等の便宜を持つと云ふことは却々に困難なことであります。

弊社調査部は、各種銀行會社の内容、各種事業界の消長、證券市場の情勢、一般金融界の情況に就いて絶えず其等の資料並に情報を蒐集し、熱心に研究致しまして、一般投資家の爲めに御相談相手となつて居ります。

殊に證券賣買に御經驗の乏しい方に對しては、懇切に御相談申上げ、出来るだけ御便宜を圖ると共に、その投資物の選擇御所有各種證券の運用、證券市況の推移等に就いても誠實に當部の意見を申上げて居り

ます。

直接御來店下さることも、又御書面を以て御照會下さることも、成るべく有効に調査部を御利用下さいませ様に希望して止みません。

附 録 (その一)

株式と投資

本文は大正十五年六月東京放送局第一回通俗經濟講座に於て放送した談話を採録致しましたものでありますが唯時間の制限と通俗的理解を主とした爲めに内容の整はないのは遺憾に存じます

南 波 禮 吉

私は只今御紹介に預りました南波禮吉であります。今晚は株式と投資と云ふ事に就て、茲にお話を申上げることになつて居ります。之を諸君がよく御判りになり、且面白くお聴きになる様にお話申上げる事は、なか／＼困難なことで御座います。

従つて、此のお話をお聴きになる多數の諸君には甚だ興味の薄いことでせうし、又株式市場に智識のある方には判り切つた話でありませうが、さうか

暫時の間御清聴を願ひ度いご存じます。

八〇

扱て、日曜大祭日等の休日を除くの外、毎日東京放送局よりは、午前九時の天気豫報に引續いて、東京株式取引所に於ける、株式取引の出来値段が放送されます。そして大抵午後四時頃迄の間に數回に亙り、株式の市況が放送せられて居るのであります。東京放送局に於て、此株式市況の放送を、天気豫報や、他の重要な事柄と一所に、毎日のプログラムに加へられて居るに云ふ事は、蓋し此株式相場と云ふものを、寔に重要視せられてゐるからであります。一言にして言へば、今日の株式取引所と云ふものは、吾々の經濟生活の背景をなして居るものであります。御承知の通り今日は資本經濟の時代でありまして、其資本經濟の特徴は、すべての企業が、大組織に赴くに云ふ事であり、其形態として現はれたものが、株式會社でありまして、其株式會社が益々資本的の威力を發揮する時代となつて參つてゐるのであります。

株式會社といふものは、既に皆さんも御承知の通り、多數の株主が集つて、

各々資本を持ち寄る事に依つて、成立して居るのであります。此各個人の出し合つた資本を表示するものが、即ち株式であります。一例を挙げますなら、茲に鐘淵紡績會社の株式がある、同社の株式は舊株と増資によつて生まれた新株とがありまして、舊株は五十圓の全額拂込、新株は十二圓五錢の拂込であり、而して同社の公稱資本金は六千萬圓でありまして、内拂込まれた金額は二千八百六十萬圓で、之は五十圓拂込の舊株三十六萬二千五百餘株と、十二圓五錢拂込の新株式八十三萬七千四百餘株とを以て表示されて居るのであります。而して株主の總人員は昨年十二月末現在で一萬四千五百餘人あるのであります。鐘淵紡績會社は我紡績會社中の第一位にある有力な會社であります。然し如何に鐘紡の重役諸君が豪いと云つても、一人や二人の力を以て之れ丈けの仕事が出来るものではない。其の背後には一萬四千五百人と云ふ人々が、今日迄に持ち寄つた二千八百何十萬と云ふ、資本の力があるからこそ、あれ丈けの大事業がやつて行けるのであります。此鐘淵紡

八一

續の株主であるところの人々は、各々資本を同社の仕事に投下した丈の株式を持つて居るのであります、其拂込金に對し毎半期、例へば最近ならば年三割八分云ふ利益配當を貰つて居るのであります。又是等の株主中には其株式は自分の所有する金を支拂つて之れを持つて居るものもあるし、又其の株式を銀行に擔保に入れて金を借りて持つてゐる人もある。然し是等の株主も長い間には自分の都合で、株式を賣つて金に代へ度い場合が起るに違ひない。さう云ふ場合は、何れかに買手を求めねばならぬのであります、無暗矢鱈に探し歩いた所で、良い具合に買手があるか、さうか判つたものではないませぬ。又反對に鐘紡さいふ會社は良い會社であるから、自分の持つて居る金をさうかして、あの株に代へて置き度い云ふ考を持つ人も、多いに違ひないのであります。

さういふ場合、幸に良い買手、賣手にぶつかつた所で、一體いくらで賣買して良いか、全然標準がなくては商ひが出来ないのであります。

鐘紡は三割八分の配當をして居る。三割八分の配當をする云ふことは、勿論利益が多いから出来るのであるけれども、此利益の多い云ふことは、時々綿糸の値段の高低にも依りますが、之は同社が多年の間に利益配當の外に、積立て、置いた何千萬圓云ふ社内積立金を、利息を拂はずに運轉が出来るところである。そうしたら五十圓拂込の親株は、一體いくらで賣買するところが正當であらう云ふ問題も、起るのであります。

然るに茲に、株式取引所云ふものがあつて、鐘紡株に對する買手と賣手、即ち需要供給を一所にまこめて、毎日の値段を定めるのでありますから、鐘紡株は例へば親株は二百五十圓見當、新株は百四十圓見當の相場が出まして、茲に標準値が決定して居るのであります。

此相場はつまり需要供給の關係から定まつた値段で、大體此の相場であるならば、いつでも買ひ度い人は買ふことが出来るし、又賣り度い人は之を賣ることが出来るのであります。此親株が僅か五十圓の拂込であるのに、二百

五十圓もして居るさいふこは、つまり會社の資産状態や、其利益の配當割合、需給關係等から、自然に且つ合理的に定まつた値段であるのであります。又新株にしても同様であるのであります。

扱て今日の經濟界は非常に發達したものでありまして、現在日本國內に於ける株式會社の数は、約二萬、其拂込資本金は、總高二百七十六億六千三百万圓の巨額に上つてゐるのであります。而して東京株式取引所に於て現在上場されてゐる株式、言ひ換へれば取引所内に於て、最長三ヶ月を受渡期限とする長期清算取引、即ち從來定期取引と呼ばれて居ります取引の目的として賣買されて居りますものは、百六十三會社に及び、其資本金は四十二億一千万圓に達するのであります。

是等の會社の株式は其數も多いし、自然賣買も多額に上る株式であります。が、其他清算取引で無く、直ちに賣買の受渡をする現物も澤山商ひされ、其他公債社債類も清算市場と、實物市場に分れて賣買されて居ります。即ち有

價證券の大部分は、東京株式市場に集つて、需要と供給が圓滑に行はれ、従つて最も公平な値段が、毎日生れて來るのであります。而して値段の出來る原因として、前に申上げた様に個々の會社の資産状態、配當率、需給關係等が、大なる力を以て居りますが、其の外に財界の大勢がさう動くかさいふこも見通してはならないのであります。即ち景氣が良くなるか、悪くなるかさいふこであります。好景氣ならば製品が高く賣れて儲かる。不景氣ならば、製品が賣れないで儲からない。そこで是等の諸事情を見越して、需要供給の作用が動いて、株価の變動が起る譯であります。まだ其の外に、外國の事情から日本内地の政治、社會の事柄まで、凡そ問題と云ふ問題は、殆んこ悉くさいふこでも良い位ひ、株価に響いて來るのであります。

例へばイギリスの炭坑夫のストライキが起るこ、アメリカの株は安くなる。それが延いて日本に影響して來るこ云ふ風であります。

又内地のここであるならば、例へば内閣の更迭から、議會中の政變案じ、

總理大臣や大藏大臣の施政演説、さては天氣の如何に依る米作の豊凶、また財界有力者の破綻といふやうなこころ迄、一々株式市場に感應するこころ有様であります。即ち取引所は世の中の鏡でありまして、此取引所といふ鏡には世の中のあらゆる事情や、出來事を寫してゐるのであります。

今一つ株價に深い關係を持つて居るのは、金融の繁閑であります。金融が緩漫になれば金利が下る。そうするに自然利廻りのよい公債社債や、確實な株式に投資が起るのであります。例へば銀行預金は、定期預金の利息が年六分に過ぎないが、證券に投資すれば、公債なら年六分—二厘位の利廻りになり、確實な一流株券なら、年八分—九分位の利廻りになる。銀行預金よりズツト利殖率が大きいのであります。

又この様な資金の運用の上から來る投資の外に、値上りを待つ所の投資もあるので御座います。

例へば、内外の大勢を觀測して、近い内に景氣が直るに違ひないと思ふ時

に、或る會社の内容を調査して、資産状態も堅實であり、事業も有望で、配當率が増す見込があれば、必ず投資家の需要が集るから株價が上り、それだけ値上りで儲かるこころいふ譯であります。故によく考へて、合理的に賣買すれば、利廻り採算による資金利殖で利益が擧がる上に、更に値上りによつて相當大きな儲けを取るこころが出来るのであります。然しながら株式に投資するこころは餘程冷靜な判斷を要するものでありまして、判斷がうまく當ればキツト儲かる代りに、判斷を誤れば損をするのであります。

然るに世間の一部には、一攫千金は株に限るこころ云ふ風に、簡單に考へて、盲目減法に手を出して取返しのかぬ事になり、延いて株式市場が恰かも賭博場の様誤解されて居るのは、甚だ遺憾であります。何事にも一利一害は免れません。殊に投機思想を云ふものは古今東西を問はず、なか／＼盛んなものでありますから、株式市場は、動もすれば、投機的に傾くこころは止むを得ぬこころであります。然しながら今日の市場は非常に大きくなつて居りま

して、言葉を換へて言へば、株式の民衆化がよく普及されて居り、相場の背後に公平な輿論が嚴然として存在して居りますから昔のやうに一、二の相場師が人爲策を以て、大勢を動かすといふ様なことは、出来なくなりました。かたゞ、今日の株式市場は、經濟界の現状を最も正直に寫して居る、謂はゞ鏡でありまして、従つて株式市場を徒らに危険千萬の所の様に云ふのは甚だ早計であります。

前に申上げた様な使命の下に、株式市場は段々發達して参りまして、殊に事業に對する國民の投資を促がしまして、國運の進歩に大なる貢獻をなしたることは、御承知の通りであります。

此の意味に於て、資金を運用する上に株式投資は、國家の爲めにも國民の爲めにも、是非心掛けていたゞき度いところで、投機的の思惑は出来るだけ避けなければなりません。早い話が、東京株式取引所は、創立以來五十年で、資本金は二十萬圓から、今日の四千七百萬圓となつて居ります。而して其株

式である東株の相場はこの間に大きな變動がありました、五十圓の拂込のものが、日清戦後に、八百五十五圓、日露戦後に七百八十圓、世界戦後に五百五十圓といふ高値を見ました。所でこの五十年間に、相場の大變動毎に一株を最安値で買ひ、最高値で賣つて儲けた所で、壹萬九百六十五圓に過ぎません。然るに最初に一株五十圓を拂込んで、その儘にして置く資本増加による新株が、段々付いて参りまして、現在では三百四十三株餘になる勘定であります。今これを一株百五十圓に、換算するに、五萬壹千五百七十七圓五十二錢になります。尤もこの内から拂込金を控除しなくてはなりません、兎も角大局から見て投機よりも、投資が確實有利である事は争はれないのであります。

況んや最安値で買ひ、最高値で賣るに似ふ様な、巧妙至極の事は神や佛でない限り、又餘程の僥倖でない限り、到底出来ない相談であります。又假りに五十年前百圓の蓄財のあつた者が、約五十年後の今日迄、その金を銀行預

金にして年五分の複利で預けたまするも、今日迄に、千四百餘圓にしか利殖は、出来ないであります。

私が只今東株のこみを申上げたのは只投資と、投機との、場合の一例證として申上げた迄で、今日までかうであつたから、將來もかうであるといふ譯でなく、又總ての株式がかうであるといふ譯ではありません。

要するに、株式市場は所謂經濟界のパロメーターでありまして、世界の動きから、日本内地の産業の興廢迄、一々正直に、寫つて居るのであります。故に男子の方は勿論、家庭の方々に於ても、此の株式市場の推移に御注意下さいますれば、今日の我經濟界がさうなつて居るか、今後さう進むか云ふこみが、よく判りますのみならず、又資産を増殖せらるゝ云ふこみに就ても、非常な参考にならうと存じます。

さうかみなさんに於かれても、資金運用の上に、株式市場を云ふものを善用して、お互の經濟生活を豊富にし、延いて國運の發展に寄與するやうに、

希望致す次第で御座います。

これで私の話は終ります。長々御清聴下さつて有難う御座います。

附 録 (その二)

九二

『株式講話』拔萃

「株式講話」は私が私の母校である慶應義塾の研究機關「産業研究會」の依頼に依り講演致しましたところの稿本を昭和二年三月印刷上梓したものであります、株式の何たるかを御承知ない人々には多少お役に立つこと、信じますので、そうした人々に讀んで戴くことを希望してゐます、茲へ掲げたものはその内容十九章中の一部、即ち二章だけの拔萃であります。

南 波 禮 吉

第八 家庭の安全利殖

實に現在の世の中で、資産のない程悲惨なものはないのでありまして、諺にも「地獄の沙汰も金次第」か「金のないのは首のない以上」云ふやうなもの

もある程であります。故に何れの家庭に於きましても、主人は勿論主婦も共に、出来るだけ収入の幾部分でも貯蓄して、まさかの時に役立てやうに致して居るやうに見受けますが、これは誠に當然なことで、我が國將來の爲めに喜ばしいことであるを申し立てよからうと思ひます。

然し日本人は収入の少ないのに、濫費する性質を持つて居りまして、兎角利殖の道に暗いのであります。米國のハウスキーピング云ふ雜誌に各國の結婚費が載つて居りましたが、それによりますと、結婚費用は英國が最も少く、支那が最も多い、日本は支那に次いで多額を費して居りまして、年收一萬圓の者は二萬圓、年收二千圓の者は五千圓位費します。英國は一萬圓の年收ある者は八百圓、二千圓の者が百圓しか使はぬ、佛、獨は一割、米は二割、伊は四割、支那は一萬圓の者三萬圓、二千圓の者六千圓云ふ莫大な費用を使ひます。これは其の國々に依つて風俗習慣を異にするからであります。斯様に金を使ふこと日本の家庭に於ける濫費の一例なるものであります。

九三

は遠慮致しませぬが、儲けることには頗る遠慮するので、金を使はぬと吝嗇だと言ひ、儲けるは金の奴隷だと言ひ申すやうでありまして、経済的に自覺することが多いのでありますから、其の収入の如き世界文明國中最少でお話にならぬ程であります。米國のバンクカース、トラストで調べた各國人の収入は、一人當り米國が最高で五百六十四圓、次が英國で四百二十五圓、佛國三百五十九圓、白國二百五十七圓、獨逸二百三十圓、伊國百七十圓、希臘百二十圓、ルーマニアでさへ百十七圓でありますのに、日本はたゞの七十六圓になつて居ります、蓋し事實であるを存ぜられます。

其處で私達が第一番に考へなければならぬのは、さうして個人の収入を殖さうかと言ふことでなければなりません。斯う申せば誰でも収入の多いことを望まぬ者があらうか、家庭生活の豊富を圖らぬ者があらうか、と言ふであります、成る程、誰も望む處は確實なる収入の多からんことに外ならぬのであります。然るに日本人の多數は収入のこれ増さんことを祈りながら、自

ら増す方法を探るを知らないで、給料生活者などは徒らに上役が月給を上げて呉れるのを待つて居て、仲々上げて呉れないと不平を洩すと言ふ有様であります。故に必ずや家庭に於て相當の収入増加の方法を探らねばならぬのであります、さうも日本人は家庭では支出のみあつて、収入がないものも考へて居るやうで「一家の主婦は消費のみを知つて生産を知らない」と言ふ言葉通りであります。又家庭での収入と言へば、直ちに副業とか内職とかをせねばならぬと思ふやうでありまして、他に有利な投資利殖のあることに氣がつかない、副業や内職も決して悪くはないのであります、無暗に誰でも出来ることではありません、殊に官吏の如きは服務規定によつて副業が禁ぜられてありますから、他から何等の束縛を受けず利殖の方法を講ずるものにしては、證券への投資が一番有利で確實であるを申してよろしい。其の銀行預金や土地投資や家屋投資と比較して遙かに利益あるものであることは後に申上けるであります、英國あたりでは後家のお婆さんなごでも、有價證券を

持つてこれを財産として居る程でありまして、家庭の投資物に最も適したものと云へるのであります。

そして有價證券が家庭に這入り、家庭に於ける蓄財が、事業資金として出廻るこゝになりますならば、我が國の産業は一層發達して富國の基礎となるこゝ當然であります。いや日本でも有價證券中の國債や社債、例へば彼の勸業債券の如き今日でも相當各家庭に分割されて居りまして、二三枚の債券を持たぬ者はないと申してよい程であります。然し未だ株式の方はそれ程注目されては居らぬ、と云ふのは少々の蓄財では手が出せない、と思つて居るこゝ、株式は危険である、と斯様に考へられて居るからであります。處が事實株式は僅かな資金を以て買入れ得る、而も株式を選択して持つて居れば少しの危険もないのであります。早い話が一株十二圓五十錢拂込のものもあれば、二十五圓拂込もあり、全額拂込で大抵五十圓でありますから、有望な新會社の株式十株を持つたうと思へばたゞの百二十五圓あればよい譯であり、

又株式を買入れるにしましても、優良會社の株式で新株なら二百圓もあれば十株は買へます、最も値の高い鐘淵紡績株なきで親株が二百五十圓(現在では二百圓)新株百四十圓(現在八十五圓)であります、故に貳千五百圓もあれば直ぐに親株拾株の株主に(現在では二千圓)なれるのであります。又中には割安なもので將來高くなるものがありますから、所謂掘出しものを見付けますれば非常に有利であります。(中略)

「附記」(一例を挙げます、私の關係して居ります相模鐵道株の如き、大正十三年七月の頃は五十圓拂込済の親株十四圓揃みに過ぎませんでした、それから次第に昂騰致しまして二年半後の昭和二年二月には八十五圓といふ素晴らしい高値に迄暴騰いたしました、この値上り一株に付實に七十一圓でありまして、假りに百株を買付けて置いたとすれば、この投資額一千四百圓で七千百圓を利得したこゝになります。尤もこの高値は最高値でありましたからこの最高値で賣抜けるこゝは素人の方として難しいと致しま

しても、八十圓臺や七十圓臺は容易に好利得で賣るこゝが出来た筈であります。資産の投資利殖としては、實に素晴らしい大成功と謂はねばなりません。斯様に所謂掘出しものを見付けまするこゝ、思はぬ莫大の利得を獲得するこゝが出来るのであります、併しそれには矢張り研究も必要でありまして、相模鐵道が營業開始に至らぬ無配當時代に、恰も十二年大震災後東京市及横濱市の復興計畫に伴ふ砂利の大需要を見越し克くその前途を見極め得たものがこの莫大なる幸運に有り付けた譯であります。

次に危険と云ふ點になります、會社の中には往々いかゞはしいものもあり、また財界の景氣が好況に向ふこゝか、不況に赴くこゝかの見極めを誤るこゝ等でありますが、先づ株式取引所で上場して取引されて居るもの、中から研究選擇して、そして現株を引取り徐に時機の來るを待つと云ふ投資方法であつたならば、最も安心であるこゝ私は申上けるこゝができるのであります。

例話の八 婦人の株主

極めて手堅き放資物へ、中以下の婦人が進んで資金を放下せんとする傾向を示して來たのは、現今の經濟界に於て看過すべからざる一大事實である。

目下米國中の重立つた諸會社に籍を有する株主の總數は二百萬人以上に上つて居る。其内三分の一強、即ち八十萬人は悉く婦人名義である。更に此數に加ふるに、貯金口座を有するもの及び生命保険に掛金するもの等を以てすれば、米國內にあつて多少に拘らず、遊金を働かせて居る婦人の數は優に七百萬人以上に達する勘定である。昔は鐵道會社にせよ、他の諸會社にせよ、婦人の株主を多數に有して居るこゝを頗る不思議として居たが、昨今では寧ろ是を當然と心得る様になつて來た。男子よりも婦人の株主を多數に持てる大會社は既に十數箇を算して居る。且つ又日毎に増加の傾向がある。彼の世界一の大會社、三十五億圓の放資物にして、十萬の株主を

有する米國鋼鐵會社に就て見るに正確なる割合を知ることは難事なるも、會社の役員の言明する處では、株主の半數は婦人であること云ふ。

米國の鐵道會社中、最も多數の婦人を株主とするものは、ペンシルヴェニア鐵道會社で、其數正に三萬二千二百九十三名、即ち全數の四割七分に相當する。此會社は抑もが「婦人會社」であつた。そして年々歳々婦人の株主は殖へる一方で千九百十一年度なきには三千五百名程の増加を見るに至つた。歴史に名高き千九百七年の恐慌前には同社の株主總數も四萬人に過ぎなかつたが、纏て恐慌の後になつて見るに、五萬九千人に増して居た。殊に一萬九千人の新株主中、半數以上は婦人であつた。是を單に數字の行列と見ればそれ迄なれど、其實裏面には看過すべからざる一大教訓が潜んでゐる。即ち世間一般「漸次相場の高きに買ひ、安きに賣れ」のウォール街の言ひ傳へを無視し、却て手堅き方面に意を注いで來た事を充分證明して居る。ペンシルヴェニア鐵道會社に次いで、多數の婦人を株主とせるも

のは、イリノイ中央鐵道である。總株數の約三分の一は、婦人の名義になつて居る。

大北鐵道、リイディング鐵道、ルイブヴィル、ナツシユヴィル鐵道、南太平洋鐵道、紐育中央鐵道、ボルチモア、オハイヨ鐵道等、何れも其の多數の株券は婦人名義である。

米國精糖會社「砂糖トラスト」の總株數の半は、婦人の手に屬して居る「類は友」の格で、不思議にも婦人の目指す方面は同一である。婦人醫師、婦人宣教師等が多數此中に交つて居るのも注目すべき現象であらう。(福澤桃介氏著「歐米株式活歴史」の一節)

右の例話の通り、米國では婦人の株主が非常に多いのであります。日本では家庭の事情が異ひますが、斯様に婦人が株式に投資して、其の資産の安全なる利殖を圖つて居ることは、經濟的に力の弱い彼等としては實に賢明なやり方でありまして、日本の家庭の者さか、家庭を代表する婦人は、これをお

手本としてよからうと思ひます。

フランクリン翁は「金は金を生む、そして金の生んだ金は、更に餘計の金を生む」と申しました。家庭に於ては出来るだけ、此金を生む金を先づ貯蓄することに心掛けねばならぬのであります。然し貯蓄した金もじつと寝かして置くやうでは金を生まない、生ませるやうにしてこそ、初めて餘計の金を生むのであります。故に幾分か貯蓄ある人は、夫々適當に、確實にして有利なる證券への投資を爲すべきでありまして、家庭としての収入の増加を此方面に求め、生活の豊富を圖る目的に、多少とも資財の増殖に心掛け、廣く國家の富に貢献する位の考へで、事業資金の供給を爲し、以て共に利益を享けることにせねばならぬと思ひます。

實際、會社事業は、個人のものでないから、収益を個人に獨占せしむべき性質を持たず、又一般人の資金に依つてこそ、よく企業の經營を爲し得るのであります故に、單なる資産家とか資本家とか云はれる人々にのみ、これを

委ね置くべきではありません。常に家庭の人々も生産事業に參劃するに云ふ意味で、是等有價證券に投資して、一株二株の株主となつても、社會生活を營む、社會人としての任務を盡さなければならぬのであります。

第十九 社會問題を解決する株式の民衆化

株式會社が現代に於きまして、斯くも全盛の觀を呈するに及んだのは、何が故であるかと思ひますれば、最近に擡頭した社會思想は、一般に社會化とか民衆化とかに向つて居りますから、何事に依らず多數の利益並に幸福を云ふことが主眼とされ、少數者の利益や幸福の獨占傾向が最も嫌はれて居るのであります。従つて生産事業に於きましても、個人企業はさうかするに社會的に壓迫せられる風がありまして、企業の社會化でも云ふべき事態に進んで居ります爲め、多數の株主によつて維持される株式會社が人々から歡迎される唯一のものとなつたのであります。其の爲めか我が國の三井、三菱、

住友、藤田、大倉等大富豪が、其の經營する處の事業を、悉く株式會社にして經營するやうになりましたのも、此の社會の風潮に依つたものであると申してよいのでありませう。勿論細かく富豪の事業が株式組織とされた點に就て調べて見ますれば、税金の關係もありませうし、使用人との關係もありませうが、根本的には社會的思想の高潮したのに順應しやうとしたものであると見て間違ひありません。

其處で株式會社なる企業經營は、益々株式の民衆化を圖つて、所謂大多數の株主に依つて維持せられねばならぬものであり、又之が本旨も目的も其點にあるのでありますから、小株主の數を一層多くするに云ふことが、現時代の社會思想にびつたりと合致する譯なのであります。今我が日本の主なる會社の一人平均の持株を調べて見ますると、東京株式取引所六十七株餘、大阪株式取引所五十一株、鐘淵紡績七十九株餘、大日本製糖五十九株餘、片倉製絲百五十五株、日本製粉百株餘、大日本麥酒百六十六株、日本郵船七十九株、

南滿洲鐵道三百十五株、東武鐵道百六十八株、淺野セメント二百三十八株餘、東京電燈二百二十四株餘、正金銀行二百十八株、日本銀行二百十八株餘などであります。以上の會社は割合株式が分割されて居るものでありますけれども、尙ほ一人の持株數は斯様に最少のもので大阪株式取引所の五十一株に過ぎませんから、より以上に分割される餘地があり、又企業の社會化、株式の民衆化の意味からも、株式會社本然の趣旨からも、そうすることに努力する必要があらうと考へるのであります。

今日最も喧しい社會問題の如き、一言盡せば金持と貧乏人とのつきり分れて、金持はいよく富むが、貧乏人は其貧苦から脱するに出来ぬ、斯くの如きは不合理も甚だしいではないか、即ち此の不合理を除くべきである、大多數の貧乏な人々が叫んで次第に勢力を占めて居るものでありまして、露國の如き不幸にも、此の問題が極端になつて、過激な革命を見たのであります。

そして今日各國の一樣に苦惱して居る問題は實にこれでありまして、我が國にても労働運動は日を逐ふて旺んになる風がありますから、各種の方法を講じて速かに其の解決を圖らねばならぬであります。で社会運動云ひ労働問題云ふも、結局は貧富の懸隔がいよく、甚だしくなるから起つた處のものであります故、其の根本的原因に向つて解決の鍵を與へたならば、事なく解決する筈であります。換言すれば貧富の間を狭め、兩者の差を出来るだけ廣くしないやうに、尙ほ能ふべくんば接近するやうにしたならばよい譯であります。

福田徳三博士なきは頻りに、社会政策を主張して、労働者の生活程度の上を目的とする、労働時間の短縮とか、勞銀の引上とかを唱へ、労働者の人格的要求を尊重する、云ふやうなことを事々しく申して居りますが、さうして此頃の労働者が又社会運動家が、そうした程度のことまで満足致しませうか、要は資本家が奪うた處の剩餘價值を返せ、又工場 of 管理權を労働者に與

へよ、云ふやうな可成り強い主張を爲して、生産者たる労働者の生産事業を目的とするが如く見受けられます。故に私は株式会社組織に依る事業であつたならば、労働者が株主となり事務員が株主となつて、自分の出資した事業に自ら労働を提供して居ることになれば、自然労働問題なり、社会問題なりは消散してしまふであらうと思ふ者であります。即ち企業利潤の分配が不公平だとか、剩餘價值を資本家が奪ふとか、利益を獨占する云ふやうな非難は起り得ないことになり、労働者であり事務員である株主にもそれ相當の利潤の配分が行はれるに到り、且つは労働者中に株主があれば、重役側に於ても常に遠慮して使用人としての給與にも心を用ゐることになるでありませんから、労働者や事務員が株を持つことは、單に株式の民衆化として、株式会社の目的に添ひ、利潤の民衆化となるのみならず、實に重大である處の社会問題を解決せしめる基本となるのであります。

既に労働問題に對する慧眼の士は、早くも此點に鑑みて、労働者を株主た

らしめて居る會社が、我が國にもあるのでありまして、そうした會社に限つて少しも勞働爭議が起つて居らぬのであります。又其の例は米國の諸會社に見るに最も明かでありまして、勞農露西亞の或る赤化宣傳者が「米國の勞働者には齒がた、ぬ」云々、其宣傳に乗つて來ないのを痛歎した云ふ話を聞いたことがありますが、誠にそれは事實であらうと思ひます。其の原因は何んであるか云へば、米國は物資が豊かであるのに、勞力が不足して居るから、勞働者の収入が非常によい。従つて團體的運動を起して、自分等の利益を擁護し幸福の増大に努めなくても、自然のまゝで相當の利益があり、幸福なる生活を営むことが出来るのでありまして、勞働問題は起り得ない状態にあるのであります。處が事實そうした勞働者の幸福が多く、利益の分配に對して不平を叫ぶ必要のない云ふのは、米國の株式會社企業は何れも大規模のものであつて、莫大の資本を擁して居るに對し、多く勞働者が其の株主になつて居る關係にあるからでありまして、自ら勞働するに當つても自分と利害を共

にして居ると思ふから、仕事に對しても熱心となり、勢ひ能率も上つて行き、利益も増す云ふ結果になり、勞働者の富も殖えて行く譯でありますから他國の如き貧富の懸隔が生ぜないことになるのであつて、結局勞働問題は無い状態にあると申されるのであります。

米國の鋼鐵王と云はれるゲリーと云ふ人が經營して居る、ユー・エス・スチール會社は世界第一の鐵會社でありまして、最初から最後までの仕事がずつと続けられる完全なシステムになつて居ります。即ち山から運んで來た鐵礦を溶鐵爐の中へ入れると、それが幾時間かの後にはちやん立派なレールになつて出る云ふ有様で、頗る科學的組織に出來て居ると申しますが、此の會社の職工の如き大抵該會社の株主であつて、自ら株式を買ふことが出來ない場合には、會社の方から進んで割當て、株を持たせ、會社での勞働を自分の仕事として爲さしめるやうに仕向けて居りますが、之れ誠に社會問題を起さしめない、根本的良策でありませう。

結局社會問題の解決は、貧富の懸隔を防ぐと同時に、現状に於ける、利益の配分を公平にするに云ふことにありますから、株式の民衆化たる株式の分割が、最も効果あるものであると断言して憚りませぬ。重ねて申し上げますれば自分の勤めて居る會社の事業状態は、其の従業員には一番よく判つて居る譯でありますから、株式投資を先づ自己の理解せる事業會社から初めるに云ふ意味からも、自分の働いて居る會社の株式を持つべきであります。斯くて家庭の投資に確實なる利益ありと申すことになるのであります。

要するに不平や不満は、乏しきに起るものでありますから、出来るだけ一家の利殖を圖つて富むことに心掛くべきであり、富む爲めには株式投資が現代としては最も有利であることは前に詳細述べた通りであります。「金持ち喧嘩せず」と申します、富んで心が豊かであれば何を好んで労働争議なき起しませうか。私は此の眞實なる理由に基いて、株式の分散が一層廣くなり、其の民衆化の普ねからんことを切に希望する者であります。

昭和五年四月五日印刷
昭和五年四月八日發行

【非賣品】

編輯者

東京市日本橋區坂本町十七番地
金万證券株式會社調查部

右代表者

朴 木 加 藏

印刷者

東京市芝區新橋田町十九番地
岡 千 代 彦

印刷所

自由活版所

東京市日本橋區坂本町十七番地

發行所

金万證券株式會社

終

